

日本災害看護学会先遣隊 令和6年能登半島地震活動報告

2024年1月20日(土)

活動隊員：畠山典子、三橋睦子、上路麻美

1. 活動日時

令和6年1月20日(土)

2. 活動場所

珠洲市立大谷小中学校

3. 状況（大谷地区）

本日19時現在、大谷小中学校避難所避難者数：67名（50世帯）、電気・ガスの状況は18日と変更なし。本日10時半、43名の方が大谷小中学校避難所より、2次避難所となる富山県内の宿泊施設へ向けて出発。（内訳：112名中、2次避難所へ43名（20日時点）、1.5次避難所へ1名、入院1名、大谷小中学校滞在：67名）。感染症療養明けに2次避難を希望している方も67名中20名程度おり、今後第2段階の2次避難が検討されている（現時点では日程未定）。

ライフラインについて、先日入水タンクの点検が終わり、浄化槽の点検が終われば水道が開通する予定。本日女性用衣料等がプッシュ型支援で届く。自衛隊の医療班の往診対応1名。今朝はさらに足のむくみが強く、状態が悪化していることから、病院受診の必要性をお伝えする。本人および付き添いの家族についても受診を希望、DMATにより搬送（珠洲市民病院）し、受診対応を行った。

4. 活動の実際

00：00 避難所の巡回

05：20 避難所の巡回

06：00 健康観察・感染症療養部屋の血圧測定等：発熱者なし、血圧、酸素飽和度共に前日と著変なし。

07：00 各種相談対応 ホットタオル配布によるモーニングケア（体育館および療養部屋全員）

08：00 避難所内本部と本日の朝ミーティング

09：30 換気・本日二次避難先へ向かう方の朝食準備対応

10：00 健康観察 DMATのドクターカー診療および病院搬送1名

1/18、1/19と連日自衛隊の診察を受けた下腿の蜂窩織炎の方の経過観察のため、自衛隊看護師が来所。本日、両下腿ともにさらに腫脹が増加しておりDMATへ依頼後、珠洲総合センターへ搬送予定となる。DMAT・自衛隊の医師の診察後、ドクターカーで予定通り搬送。同室入所の妻は、同病院での入院あるいは付き添いを希望するが、どちらも叶わずコロナ感染の隔離期間まで入所継続し、その後皆さんと一緒に第2段の2次避難へ同意される。その後総合センター病院より電話連絡があり、医師の診断で翌日退院が決定したとのことで、1/21再入所となる予定（その後、本人の負担の軽減、孤立地域への搬送経路の課題もあるため、病院から直接2次避難所へ妻と同時期に移動することになる）。

11：00 2次避難先へ出発後、体育館の一斉清掃

砂や綿埃、ゴミなどを一層するため、2次避難された方のベッドの片付け、環境整備等を行う。

14：00 茨城DMATによる1.5次避難所への搬送1名

車椅子利用の方1名を1.5次福祉避難所へ搬送（DMAT）。便秘の主訴があり、処方薬の服用が視力の関係で難しいため、処方薬を一回分とわかるようにセットする。

健康相談対応等：前日血圧の高かった方の継続測定、2次避難後の血圧測定等自己健康管理の方法、処

方されている薬の種類と飲み方がわからないという方への方法の教示、生活に関すること、冬場の健康管理に関すること、体調不安を抱える方への会話の中から引き出す問診、被災後の思いの傾聴、その他、感染隔離部屋はじめ教室、体育館内の避難者、ボランティアスタッフ、本部スタッフへの健康確認、感染隔離部屋や気になる方のバイタル測定、感染隔離室への配膳・下膳・ごみ処理・換気、ホットタオルの配布、点滴管理、新聞や飲み物など必要物品の調達、蜂窩織炎疑いのタオルで作成した冷湿布、手編み帽子やのど飴等の配布、更衣室の設置、震災時の様子や今後の生活に対する不安の傾聴、定期的なトイレ清掃や溜まった汚物の処理、ボランティアスタッフや本部スタッフの悩みの傾聴、児童へ持参した風船や折り紙、マジックセットなどの配布等、必要と判断した支援を提供。医療班のブースは入口付近に場所があるため、コミュニケーションの場ともなっている。

17:00 珠洲市保健医療福祉調整本部会議(zoom)出席 大谷小中学校の現状報告と情報共有

19:00 大谷小中学校避難所本部ミーティング , ホットタオルの配布 相談対応

本避難所の43名が富山の2次避難所となるホテルへ集団2次避難を行うことから、出発の準備計画どおりに対応する。10時30分に大谷小中学校玄関集合、12時30分「道の駅すずなり」に集合し、バス又は自家用車で移動する。20日午後からは、避難所内の滞在人員が少なくなることから生活環境の改善と感染防止を主として再配置すると共に、館内の清掃を行った。

希望する方への血圧測定・健康相談の実施。富山に2次避難した際の継続フォローについて、富山県内の支援団体からの申し出があり、大谷小中学校避難所の連絡担当者の確認を行う。2次避難先における各種連絡先等を避難所でまとめ、2次避難される方へ配布した。2次避難では、自宅の復旧や仮設住宅等への入居が始まるまでの間、一次的に被災地の避難所から、金沢以南、または、県外のホテル・旅館に移動することになるが、本避難所の大谷地区の住民は「行くならば皆同じ2次避難所へ」という希望を出しており、富山県のホテルへの集団避難が実現した。2次避難の対象者は、ホテル・旅館で自立した生活が可能の方、ご家族の介助によりホテル・旅館での生活が可能の方が対象となっているが、本避難所は高齢者も多いため、健康を維持するために継続した生活・健康支援が重要な課題である。本避難所で相談の2次避難にむけて相談が多かった事項である、2次避難後の常用薬の処方に関すること、手続き関係、相談先などについて、本部と確認が取れた事項等をよくある質問をまとめ、記載したチラシの作成について提案し、千葉県職員と先遣隊員が共同で作成した。2次避難所へ出発時に住民へ一人一人配布、「心配していたので安心した」等、の言葉をいただいた。一つ一つの声掛けやコミュニケーションからのニーズ把握は重要である。

6. 考察

本日は、112名中43名が2次避難先に移動することから、2次避難に関する相談対応が多かった。大谷地区で共につながり過ごしてきた皆さんであるため、2次避難される方も、残る方も感極まっていた。被災後、避難所ではあまりよく眠れていない方や、入浴できていなかったことから、現地での入浴や休息について期待している声がきかれた。一方で、不眠や不安に伴う血圧の上昇が多く認められ、咳嗽・咽頭痛の訴えもある。2次避難された方、避難所から移動しなかった方、引き続き活動を継続する（被災者でもある地元の）ボランティアスタッフについても、皆同様に被災をしており継続した健康・生活支援が必要であり、相談できる環境が重要である。また、今後の避難所支援者に過度の負担がかからないようなシステム化が課題である。本日の集団2次避難に伴い、避難所人数がこれまでの約半数となった。さらに、来週22日以降には感染症部屋の20名近くが療養解除となり、今後の第2段階の2次避難が進んでいく。

避難所に残る方にとっては、知り合いが次々と 2 次避難で避難所を去っていくことのみしさ、被災者同士の助け合いで組まれている避難所内ボランティアスタッフも徐々に 2 次避難により少なくなり、一定の方に負担が偏ることが懸念される。生活の視点を踏まえた避難所の環境整備が重要なフェーズとなる。入浴については、五右衛門風呂の設置や、循環型のシャワー機能の支援申し出をいただき、近く入浴ができる環境が整備される予定であるが、足浴や手浴、温かい食事、できるだけ良質な睡眠環境、リラックスできる環境づくりなど、避難者個々とのコミュニケーションなどを踏まえ、現在滞在する方々の快適な環境づくりを検討する必要がある。

なお、珠州市保健福祉調整本部会議へ本日より ZOOM で参加できるようになり（通信状態の課題はある）、日々の現状と課題を情報共有し発信することで、関係機関との連携・協力により支援を展開できることが示唆される。直接現状を行政や支援団体と共有できる機会が毎日あることで、本避難所および住民の困りごとなどをタイムリーに発信できることから、孤立地域のサポート体制を構築する機会の一助として大変ありがたく、本避難所の支援者とも共有し、本先遣隊部隊の後に入る先遣隊へも会議への参加について情報共有を行った。

本日夜からさらに厳しい寒さが到来するとの予報。避難所内の暖房のために使用されている灯油ストーブの管理にも注視する必要がある。

7. 参考写真



体調確認・血圧測定・健康相談等



避難所運営本部（大谷小中学校 1月20日現在）



2次避難先へ出発



物資